

# 栗東駅周辺まちづくり検討会議

## 議事要約

平成 25 年 11 月 11 日（月）午後 7 時 30 分～  
コミュニティセンター大宝 大会議室

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

（省略）

### 3. 自己紹介

（省略）

欠席：児嶋委員、廣政委員

### 4. 報告事項

- （１）栗東駅周辺まちづくり検討会議開催要項
- （２）前回（２／１９）におけるご意見

#### 《質疑応答》

特になし。

### 5. 協議事項

- （１）栗東駅周辺のまちづくりと駅前公共用地の利活用について
- （２）栗東駅周辺のまちづくり 今後の検討の進め方について

#### 《意見交換》

#### 委員

---

前回の会議の際には、ここまで立派な目的を持った会議とは思えなかった。起債残高も多くあることも良く分かった。今日の経過説明を聞くと、期待が膨れ上がってきた。

前回の会議の記録についても説明があったが、活字になって出てくると、いろいろと大事なことを話し合っていたことが分かる。

財政状況の見通しが少し見えてきたので、南草津のようにまちづくりを考えていかなければいけない。みんなのためになるまちづくりを進めなければならない。

市役所が庁内プロジェクト会議を立ち上げたことについては、真剣な意欲を感じた。

我々も意見を出しながら、しっかりと考える必要があると思っている。そのような想いから検討会議の組織体制も最適な人選を考え、皆さんに引き受けていただけるようお願いさせていただいた。

## 委員

---

これまでの行政は、コンサルタントに計画づくりを任せ、帳面消しとして住民に意見を聞いてきたような印象がある。今回は、組織体制ができたことが一歩進んだのではないかと感じる。

いつできるかの具体性もない絵を描くだけでなく、実際に実現していくことが重要である。我々の意見を吸い上げていただきたい。

## 事務局

---

駅前周辺の様々な事情を皆さんからお聞きして、最適な計画を立案していきたい。コンサルタントには、皆さんのご意見をお聞きして市内部のプロジェクト会議での検討の支援をお願いしている。

## 委員

---

駅前公共用地単体ではなく、周辺地域全体を含めてのまちづくりの考え方が重要である。自分は商業者代表として発言したい。南草津の駅前や草津駅前の商店街でも空き店舗が出てきているが、一方で飲食店などは数が増えてきている。夜の居酒屋だけでなく昼間の食事ができる場所など、栗東駅前が賑わっていただきたい。

住民の数は相当に多い。全ての住民が同じ方向を向いているのではないが、住民は本当に南草津のような賑わいの形を望んでいるのだろうか。または、そのような賑わいは望んでいないのか、自治会長さんなどから本音、全体の方向性をお聞かせいただければ、自分たちの立場で取り組むことも見えてくると思い期待している。

## 委員

---

検討会議は、過去に1回を開催しただけだろうか。もともと何名の委員がいらしたのか。

## 事務局

---

今年2月に1回開催させていただき、今回が2回目である。第1回の会議開催時の委員数は9名であった。本日配布の名簿に継続と書かせていただいている方が該当する。

## 委員

---

当初、栗東駅が開業した当時は、マンションが建ち並ぶ住宅街を想定し、商業的な施設は住民が反対したように聞いている。パチンコや深夜の飲食店の立地を避けてきたのは、静かなまちづくりのイメージが最初からあったのだろう。夜遅くまで賑やかな駅前のまちづくりを期待したわけではなかったと思う。どのように転換すべきかを

考える必要がある。今後も既存の住環境を重視するのであれば、駅前であっても、住環境を阻害するものは、抑制する必要がある。しかし、もしも、そうも言っていられない状況にあるのであれば、まちづくりの方向転換も含めて考えなければならない。

駅前も広く場所を取っていただいているが、人が集うような空間となっているのか、考える必要がある。

駅周辺全体でまちづくりを考えるのであれば、駅の東西で2グループに分かれて意見交換する必要があるだろうか。これだけの人数ならば、このまま意見交換すれば良いと思う。

## 事務局

---

少人数の方が発言の機会も増えて良いのではないかと考えて提案させていただいている。委員の皆さんの意向に沿って進めたい。

## 委員

---

駅周辺全体で考えることが重要なので、全体で話し合えば良い。

## 委員

---

私は若い頃に大宝の青年団の団長をしていた。一年間の活動スローガンとして、右側に「お見合い結婚か、恋愛結婚か」、左側に「縊に駅をつくろう」と書いた。当時から駅を開業することを考えてきた。

現状として、賑わいだけを求めて住んでいる人はどれくらいいるだろうか。

エスリードが建設された時に、隣のマンションの人が反対し、自治会として考えることとなった。その際の住民の意見として、何かを建設する時には、予め早い段階で住民に分かる形で進めるべき、という意見だった。

死んだような静かなまちで良いのか、という意見もある。賑わいとは何か。賑わいを創出するにしても既存の住民の住環境に配慮すべきである。住民の意向も把握していただく必要がある。住民の心情をよく考えていただきたい。

意気込みは伝わってくるので、しっかりと検討いただきたい。

## 副市長

---

今後このような会議を持ち、十分に検討をさせていただくというのが当初の趣旨であった。皆さんのご意見をお聞きした結果、暮らしの中で様々なご意見があるので、広い範囲でご意見を賜る形にさせていただいた。広くご意見を聞く中で、地区計画なども含めて様々な具体的なご意見もいただくことになると考えている。

東西の2グループに分けるのは、ワーキング形式のように具体的な話をさせていただきすいように提案させていただいた。皆さんの中で1グループが良ければ、1グループで結構である。

## 委員

---

昨年度は、検討会議を設置して意見交換をしたいという趣旨の説明が年度当初にあり、結果的には年度末に1回開催されただけであった。その後も、特に情報提供はなく、どうなったのだろうか、と考えていた。先日、議会で質問があったので、やはり、動き始めたか、と気にかけていた。本日の資料で、今後プロジェクト会議を設置して検討すると示されており、評価する。どんどん積極的に進めていただきたい。

地元の代表として委員を務めさせていただいている。駅ができる前から住んでおり、地域の変遷を見てきた。今、地域にはたくさんの方がお住まいになっている。皆さんはどのように考えていて、市のビジョンはどうなっているのか。住民の意向調査をするなどの取り組みが必要だと思う。多くの皆さんの意見を聞くのであれば、住民の関心を喚起することが重要である。広く住民のご意見を聞く場については、どのように考えているのだろうか。この検討会議には、地元代表が8人いるが、この場で意見交換をして終わりではないだろう。

また、駅前の公共用地についての具体的な施設機能を検討するのは、まだまだ、先だろう。判断材料の一つとして、土地の売却処分が難しいという説明があった。今後の玄関口発展の起爆剤、皆さんに喜んでもらう拠点として、いくつかの選択肢があるはず。売却以外に、公共的な利用の視点や民間の有効活用 of 視点など、コンサルタントの力も借りながら方向性を導けないだろうか。大きな方向性を分かりやすく示して欲しい。比較検討する資料など判断しやすい資料を提示いただきたい。

## 事務局

---

今回は、今年度最初の会議であり、まずは皆さんのご意見をお聞きすることが大事だと考えている。皆さんのご意見を踏まえて市としての考え方を検討していきたい。多様な住民の意見の集約方法は、アンケートや周知説明など、幾つかの方法が考えられる。最適な方法を検討して実施していきたい。

今後、庁内のプロジェクト会議での検討を積み重ね、次回以降の会議において考えられるメニューをお示しさせていただくなど、市としての考え方を取りまとめ、検討の材料として提案をさせていただきたい。

○2 グループに分けずに全体で意見交換することを確認。

資料説明―栗東駅周辺まちづくりの課題図（案）について（省略）

## 《意見交換》

### 委員

---

ウイングプラザと栗東駅前広場等を活用した事業として祭りを開催していた。イルミネーションなどを実施したが、住民の皆さんは静かなまちを好まれて移り住んだ方がほとんどである。このため、以前は、僅かなことでも苦情がきていた。

しかし、3年前から祭りでの苦情は0件となっている。最近、子供も増え、コミュ

ニティが成熟することで騒がしさへの感覚が変わってきた。この10年間で大きく変わってきたと感じる。

コミュニティの希薄化についても、このエリア特有のものがある。この地域の実態に合わせて変化に柔軟に対応する必要がある。

賑わいと一口に言ってもいろいろあり、この地域の賑わいはどのあたりになるか、合意形成が重要である。このまちは刻々と変化しており、今の住民の声を聞いて判断する必要がある。

## 委員

---

1回、2回の会議では大きなまちづくりの議論を尽くせない。この会議の意見だけでなく、広く住民に意見を聞くことが重要である。

マンションにも近所づきあいがある。地域には子供はたくさんいて、子育て世代同志のつきあいはある。まるで昔ながらの長屋の付き合いのような近所づきあいがあるという話を聞いたことがある。

我々委員の意見を求めたり、住民の意見を聞くことも大事だが、まずは市としてのビジョンを聞きたい。

## 事務局

---

ご指摘の通り、お聞きした全てのご意見を反映できるものでもない。様々な方法でご意見をお聞かせいただき、それらを踏まえて市としての方向性を整理し、基本方針（案）として提案をお示しさせていただきたいと考えている。

まず、駅前の公共用地の利活用について、市としては財政負担を考慮すると、何らかの形で民間活力を活用しなければならない状況となって来ている。また、静かな居住環境を重視している住民の方の想いを大事にしつつ、賑わい、商業の活性化、コミュニティの活性化を求める声も踏まえて、様々なまちづくりの課題と合わせて検討していく必要がある。アンケートをすれば意向把握ができるというものではなく、このような会議の形も含めて、ご意見をお聞きしながら進めたい。

## 委員

---

栗東駅で多くの人に降りていただく必要がある。栗東八景や中山道などの資源を案内する施設が栗東駅前に欲しい。

栗東駅前に人が集うような空間が欲しい。当初は滝が考えられたけれども、水辺があれば、人が集まるというものではなかった。

## 委員

---

大きなまちづくりの視点から検討することが重要。対症療法でなく、長いスパンで本質的なまちづくりに取り組むべき。

栗東駅周辺には街道文化があり、金勝の方には仏教文化などの資源もある。また、JRAとの連携なども考えられるのではないかな。

## 委員

---

住民のニーズは、世代によって様々に異なるなど、多様化しており、調整は困難である。安全、安心を確保しながら一定の賑わいを創出していくことが重要であり、市としての考え方、基本理念を持って市民に十分に説明し、理解を得るような進め方をしてはどうか。

## 事務局

---

全てのご意見を反映することはできないため、市としての考えをしっかりと示せるように方針をまとめていきたい。そのためにも今回は皆さんのご意見をお聞きたい。

## 委員

---

住民の声を聞いてみたところ、草津や守山も良いとは思ったが、栗東駅前の静けさや利便性、そして、住み良さランキング 1 位などが評価されて居住地として選ばれている。マンションが建ち始めてから 10 年以上が経過し、ここで生まれ育った子供たちが増えてきている。児童館を利用する子供も多くいるが、地域の情報を余り知らない住民も多いのではないだろうか。ウイングプラザに入居する良い施設の情報を提供し、活用と交流を促進すべきである。学校や自治会などを通じて情報発信してはどうか。

## 委員

---

この会議の名称が変わり、検討範囲が広がった。以前は、駅前の公共用地をどうすべきか、という議論であったが、今は、住民のこれからの生活像にも関わる大きな話から検討することとなった。駅前については、地区計画で娯楽施設は制限されているが、それ以外の地域づくりについては、様々な意見が出てくるだろう。それらを短・中・長期に振り分けるとなれば、継続的な議論が必要になるだろう。大きな方向性は都市計画マスタープランにある。住民の意見を聞きつつ、この大枠を外れないように進める必要がある。検討を重ねるうちに、時代の速さに遅れないようにスピード感を持って検討して欲しい。プロジェクトチームに期待したい。

## 委員

---

駅前公共用地の利活用方策の検討から、周辺も含めたまちづくりへと広がることによってポイントがズレないようにすべきである。公共用地の利活用に絞って市の考えを出した方が早く進む。

第一に駅利用者を増やすことが重要だと考える。このため、栗東駅の利用実態を調べてはどうだろうか。

また、安全面を考えると駅前の交番には常時人がいるべきである。

## 事務局

---

前回、駅前の公共用地の利活用方策についてご意見をお聞かせいただいたところ、防犯、交通、周辺のまちづくりなど、様々なご意見があった。それらのご意見を踏まえ、庁内でも課題の抽出やプロジェクト会議の設置をさせていただいた。最終的には

駅前の公共用地の利活用について方針を定めたい。

## 委員

---

栗東市は、主として車での移動となる。東西の主要道路は、(都)栗東志那中線の1路線のみである。(都)大門野尻線の拡幅整備がなかなか進まない状況だが、活性化には動線が必要であり、JRで分断されている東西の動線、道路の整備が重要である。

## 事務局

---

栗東駅の利用者の増加や活性化を図る上でも、周辺の道路整備やバス路線の充実により利便性を高めていくことも重要であると考えている。

## 委員

---

栗東駅は、市の玄関口であり、顔である。まちの活性化のために駅が設置されてきた。市全体として駅周辺をどう考えるか、の議論が必要である。

やはり、ウイングプラザの現状を見ると、さらなる活性化が必要であり、これまでの住みやすい環境づくりだけでは、賑わいを創出することは難しいのではないだろうか。何らかの方向性を考えていく必要があるのではないだろうか。

## 委員

---

これだけの事案を議論するのであれば、もう1回の開催だけでは、議論を尽くすことはできないので、進め方は再検討をいただきたい。

マンションやアパート、住宅、古くからの住民、それぞれで考え方が異なる。このような状態で合意形成を図ることは非常に難しい。意見を聞いて市としてしっかりと基本方針を示して欲しい。

## 委員

---

ウイングプラザからテナントが出ていっているのは寂しい。駅前で商いをするテナントがあることが、賑わいだと思う。地代などの高さなども原因ではないだろうか。

## 副市長

---

今回いただいたご意見を踏まえて、5回のプロジェクト会議でしっかりと検討を重ねたい。プロジェクト会議の進捗具合にもよるが、ある程度まとまった段階で検討会議のご意見をお聞きしたいと考えている。また、今年度だけでまとめあげることも難しいことも理解している。時間が掛かるようであれば、継続的なご議論をよろしくお願ひしたいと考えている。

## 委員

---

栗東市全体から俯瞰して、この地域の役割を考える必要がある。市としての考え方をしっかり示すことが重要である。プロジェクト会議で議論を重ね、住民に説明できる方針を整理する必要がある。その際、駅前公共用地は、駅に接した一等地であり、立地条件にふさわしい機能を導入すべきである。延床面積などの規模も大きな要素で

ある。不必要な公共施設を整備する必要はない。民間の施設の中に一部公共的な機能がある、という考え方が良いのではないだろうか。

## 委員

---

この検討会議も名前が変わり、検討範囲も広がって継続も考えられるため、委員長  
の選任も検討すべきではないだろうか。

## 事務局

---

その点についても、内部で検討させていただき、次回にお諮りしたい。

基本方針（案）の取りまとめ方によっても会議の進め方が変わって来ると考えてい  
る。具体的なお意見を様々にいただいております、基本的にご意見に沿って考え方をまと  
めていくこととなるが、基本方針として、どのレベルで取りまとめるかによって、検  
討会議の回数などが変わってくると思われるため、市としても検討し、ご相談したい。

## 6. 閉会(副市長あいさつ)

(省略)

以上